

令和元年度第4回埼玉県公共事業評価監視委員会 会議要旨

1 再評価実施事業の審議

① 206 総合流域防災事業 一級河川 飯盛川

委員： 残事業 B/C を算出する際に R 1 年度の事業費が 0 となっているのはなぜか。

事業課： 残事業費として R 2 年度からの予算を計上するもので、R 1 年度の既執行額は 0 となる。

② 207 総合流域防災事業 一級河川 市野川

委員： 総事業費が変化している理由は。

事業課： 諏訪堰の改築に伴う事業費を精査した結果、必要な経費が約 3 億円減少したことによる。

委員： 事業内容が減ったということか。

事業課： 当初見積もっていた金額より安く工事ができたということ。

委員： 堤防天端の幅が 7 m となっているが、道路として供用する予定はあるか。

事業課： 河川管理用通路として使用するが、地元市町との調整で使用したいという意向があれば、ルールに基づいて市道・町道として占用を許可している。

委員： 今後利用する可能性があるのか。

事業課： 全体としてニーズがあり、河川管理上支障がなければ占用許可で対応する。

③ 208 広域河川改修事業 一級河川 和田吉野川

委員： 今回の台風では被害がなかったようだが、これは改修の効果か、雨の降り方の違いによるものか。

事業課： 雨の降り方の違いはあるものの、改修の効果が発現したものと考えている。

委員： なぜ 70 年間もかかっているのか。R 17 に完了を見込んでいるのはなぜか。

事業課： 橋梁架け換えなど、横断構造物の改築も併せて実施していることから時間を要している。整備計画の目標年度が R 17 年度となっているので、時間はかかっているが 17 年度に完了することを目標に事業を進めていく。

委員： 氾濫シミュレーションで改修後は 50 年確率まで被害がゼロとなっているがなぜか。

事業課： 和田吉野川は整備計画目標が 1/50 であるため、改修完了後は被害がゼロとなる。

委員： 公共土木施設被害軽減額が 2 兆円計上されているが、その対象は。

事業課： 道路、橋りょう、下水道、都市施設、農業用施設が対象となっている。和田吉野川は事業の初期に実施した荒川合流点付近の整備による効果が大きく、時間が経過していることから社会的割引率により非常に大きな便益として計上されているため、総便益が 2 兆円となっている。

委員： 図面は破線が未改修、実線が改修後か。
事業課： 破線で示している断面から実線で示している断面に改修する。

委員： 植栽の絵が示されているが、実際何か植えているのか。
副部長： 河川整備計画策定時には、実際の整備を行う時に自由度を持たせるために、参考図として断面図を示している。

委員： 整備計画の中では河川の粗度も設定しているが、その通りではないのか。
副部長： 整備計画策定段階で明確に決めると環境等に配慮せずそのまま整備されてしまうため、詳細設計の中で細かいところを決められるよう自由度を持たせている。

④ 209 総合流域防災事業 一級河川 備前渠川

委員： 総合流域防災事業は他の事業と何が違うのか。同じ小山川流域でこの事業となっているが、地域的な要件があるのか。
事業課： 総合流域防災事業は河川整備と合せて河川監視カメラや浸水想定区域図などのソフト対策を実施する事業である。備前渠川、女堀川は小山川に合流する河川であり、小山川は水位周知河川であり浸水想定区域図の作成が義務付けられている。そのため、備前渠川、女堀川は、総合流域防災事業として実施している。

委員： この地域でやることに意味があるということか。
事業課： 小山川流域には依然資産が集積しているので、ソフト対策と併せて事業を行っている。

委員： 便益がこの河川のみ減少しているのはなぜか。
事業課： 地盤高のメッシュデータの精度が向上した結果、氾濫の範囲が変わり便益が減少している。

委員： 周辺が田圃であり、流域を活用した治水の考え方もあるが、どのように考えるか。
事業課： 浸水リスクが高いところに資産を集積することは社会的なコストを考えると望ましくないと考えられる。大規模な降雨よりも中小洪水において貯留できるという意味で、治水上の効果があるのではないかと考える。

委員： 支川が整備されると本川に影響を与えることになるのではないか。
事業課： 本川の改修が進まないと支川の改修は手を付けられない。河川の整備を進めるために河川の途中に貯留施設を設けるという考え方はある。

⑤ 210 総合流域防災事業 一級河川 女堀川

委員： 全案件の中で最も進捗率が低く、住宅地の形成も進んでいる。事業期間内に完了すると表記すると誤解を招くのではないか。ほぼ確実に変更するのではないかと思うが、正しい情報発信をする必要があるのではないか。対応方針を継続とすることに異論はないが、事業期間内に完了するということには違和感がある。
事業課： 横断構造物の協議が調い、河道に集中投資を行うことができれば期間内に完了できると考える。

委員： 今回扱う全ての事業で事業完了が令和17年となっているのはなぜか。
事業課： 河川整備計画を策定したのが平成17年であり、概ね30年間を目標の

整備期間としているため、事業完了を令和17年としている。

委員：今の整備計画のままに進めることになるかもわからない。必要に応じて整備計画を見直す必要があるのではないか。

事業課：台風等の大きな被害を受けて、整備内容を見直す必要が生じた際には整備期間を見直すこともあり得る。その際には、新たに設定した事業期間が妥当かどうかを公共事業評価監視委員会に於いて審議いただくことになると考えている。

委員：今回のような大規模な洪水が起こると、流域の整備計画を見直すということはあり得るのか。

事業課：利根川本線で受け入れられる流量も限りがあり、小山川から利根川に吐き出す量にも限度がある。小山川流域に求められる治水安全度によっては流域に湛水させるという選択肢も出てくるかもしれない。

⑥ 2 1 1 流域治水対策河川事業 一級河川 芝川

委員：地盤を測ると便益が変わるという話があるが、どういうことか。堤防天端の高さの話か。

事業課：氾濫原において、高さを詳細に把握できるようになったことで、従来と氾濫の範囲が変化したことによる。

委員：氾濫の基は河川であり、河川からの広がりにおいて地盤の高さを測って勾配が逆であれば広がりにくくなるということか。

事業課：その通り。従来は250mメッシュだったものが50mメッシュになるなどして、地盤高の精度が上がったことで、水の広がりがより正確に把握できるようになった。

委員：地盤沈下による影響はないのか。

副部長：以前より収まってきてはいるが、県の北東部ではまだ残っている。以前よりオーダーが小さくなっている。低平地における地盤沈下はまだある。

委員：美化活動団体や期成同盟会はどのような団体か。

事業課：一般の市民の方の団体で、河川の改修を要望する期成同盟会や、河川の美化のために活動している団体である。

委員：どこの河川にもよくある団体なのか。

事業課：一般的には、水害の被害にあった方が集まり、地元の市町村が事務局となっていることが多い。

委員：期成同盟会は一般的な言葉か。

事業課：建設期成同盟会や改修促進期成同盟会がある。

委員：見沼田んぼはもともと遊水機能を持たせる考え方であると思うが、田圃を守るために築堤するのか。

事業課：芝川流域にも保全対象となる資産がある。また、流量を流すためには築堤する必要がある。芝川には多数の調節池計画があり、調節池を作るためや、下流からの河道の計画のためには築堤が必要となる。

委員：用地買収率が前回から低下している要因は。

事業課：前回の用地買収率99.3%が誤っていると考えられる。

⑦ 2 1 2 総合治水対策特定河川事業 一級河川 新河岸川

委員： 東京都境をまたぐ河川であるが、連携しているのか。

事業課： 国や東京都と調整しながら事業を進めている。

委員： 台風19号では浸水被害を受けている箇所もあるが、改修が進めば被害はなくなるのか。

事業課： 台風19号の検証はこれからだが、国の施設も含めて整備が進めば今回の被害も相当解消される。

委員： 被害はゼロになるのか。

事業課： 今回の雨の規模が相当大きいので、ゼロになるとは言い切れない。

⑧ 2 1 3 総合治水対策特定河川事業 一級河川 不老川

委員： 台風19号でも氾濫したのか。

事業課： 上流の未改修区間の橋梁付近からの溢水が確認されている。

委員： 床上浸水対策緊急事業が採択されているが、関連計画の変更には当たらないのか。

事業課： 床上事業は整備計画に位置付けられている整備メニュー内の事業であるため、事業計画や上位の計画の変更はない。

委員： 過去には水質の点で問題とされていたが、最近はどうか。

事業課： 下水の再利用水を上流から流すなどして対策しており、近年はきれいな水が流れている。

⑨ 2 1 4 流域治水対策河川事業 一級河川 鴻沼川

委員： 改修は複断面で進めるのか。高水敷きの利用はあるのか。

単断面でもよいのではないか。

事業課： 通常は矢板で単断面とするが、地下水の層を打ち抜き地盤沈下を誘発するため、地盤改良を行いながらの矢板打設が必要となった。そのため、複断面となっている。下流から複断面で整備しているため、上流も複断面となっている。地盤改良のためアルカリが強くなるため高水敷きの植栽も生えにくい。大雨の際には下水と合流して雨水が流れてくるため、水辺に近づきにくい河川となっている。

委員： 高水敷きを低くしてすぐ浸水するようにして、植物が生えるようにして水質も改善するのでは。

事業課： 下水の水が入っているので、水質の改善は難しい。根本的には分流式にすることが必要であると考えている。

委員： 流域での治水として下水道の役割はどの程度か。

事業課： 断面的には同程度か、下水道の方が大きい程度。地下河川と同程度の大断面のシールドを活用して下水でも貯留施設を整備している。下水との連携は欠かせない。上流に行けばいくほど下水の担う役割は大きい。

2 その他

① 現地調査

会 長： 現地調査について提案をしたい。事業内容や地理的条件等を考慮し、以下の4箇所としたいと思うが、委員の皆様はいかがか。

番号203 仲仙道（北本工区）

番号204 飯能所沢線（3工区）

番号211 芝川

番号213 不老川

委 員：異議なし。

会 長：それでは、この4箇所を選ばせていただく。